戌年生まれの人口

昭和57年の年男，年女は866万人(総人口に占める割合7.3%)で，男423万人に対し，女は20万人多い443万人となっている。

年齢別にみると，最年少の昭和45年生まれの人口が192万人と最も多く，以下，昭和21年生まれが162万人と続き，昭和33年生まれ及び昭和9年生まれは共に160万人となっている。

このほか，昭和57年に還暦を迎える大正11年生まれは105万人，明治43年生まれは67万人，明治31年以前の戌年生まれは合わせて20万人となっている。

総人口を十二支別にみると，もし各年の出生児数が一定と仮定するならば，昭和56年の出生児数を新たに加えた酉年生まれの人口が一番多くなるはずである。しかし，現実には各年の出生児数が異なっており，しかも，昭和20年等の出生児数が平年の出生児数よりも目立って少なかったため，酉年(985万人)は8位となっている。一方最も多いのは，丑年，申年(各1023万人)で，以下，未年(1022万人)，巳年(1009万人)などと続き，最少は戌年(866万人)となっている。

【編集部注】
この記事は，総理府統計局「統計局インフォメーション」(No43)から転載したものです。

表1　戌年生まれの人口[1](昭和57年1月1日現在)

(単位：万人)

生まれた年	年　齢[2]	男女計	男	女	構成比(%)
(計)		866	423	443	100.0
昭和45年	12	192	98	94	22.2
33年	24	160	82	78	18.4
21年	36	162	82	80	18.8
9年	48	160	80	80	18.4
大正11年	60	105	45	60	12.1
明治43年	72	67	29	38	7.7
31年	84				
19年	96	20	7	13	2.4
7年	108				

1) 推計による
2) 誕生日を迎えた時の年齢

表2　十二支別人口の順位

十二支別	人口(万人)	総人口に占める割合(%)	実際の人口順位	各年同じ出生児数と仮定した場合の順位
戌(いぬ)	866	7.3	12	12
亥(い)	981	8.3	9	11
子(ね)	991	8.4	6	10
丑(うし)	1 023	8.7	1	9
寅(とら)	988	8.4	7	8
卯(う)	968	8.2	10	7
辰(たつ)	993	8.4	5	6
巳(み)	1 009	8.5	4	5
午(うま)	951	8.1	11	4
未(ひつじ)	1 022	8.7	3	3
申(さる)	1 023	8.7	2	2
酉(とり)	985	8.3	8	1

〔前頁より続き〕

調査除外事業所（P4，「はじめに」の項参照）

1　日本標準産業分類における「大分類A—農業(「細分類0531—獣医業」を除く。)」，「大分類B—林業，狩猟業」及び「大分類C—漁業，水産養殖業」に属する個人経営の事業所並びに「中分類76—家事サービス業」及び「中分類96—外国公務」に属する事業所

2　収入を得て働く従業者のいない事業所

3　休業中で，従業者がいない事業所

4　季節的に営業する事業所で，調査期日(7月1日)に従業者がいないもの

5　劇場，遊園地，運動競技場，駅の改札口内などの有料施設の中に設けられている事業所

6　家事労働のかたわら特に設備を持たないで賃仕事をしている個人の世帯

(統計課・商工統計グループ)

茨城県統計大会を終って

菊花薫る11月12日，第23回茨城県統計大会が谷田部町で開催され，盛会裡に終った。

このことに関連して，統計いばらきへ掲載するから開催地として何か書け，と県統計課から連絡があった。しかし，もともと文才のない私なので遠慮したのであるが，少くともお礼をいわなければならないし，参考の一端になればと思い，その経緯についてのべることにします。

ご承知のように茨城県統計大会の会場は今まで水戸市を離れたことがなく，近年は県民文化センターで行うことが通例となっていました。

ところが夏のはじめ頃統計課長さんが見えて，会場は文化センターと決っているわけではないのだから今後は各ブロックへ進出して持廻りのようなかたちで開催したらどうだろう。そうすれば交通の便・不便，遠近の差はあっても，統計関係者がこの機会に各地域を知ることができ有意義なのではないだろうか，との話があった。私はこれを聞いて，いわば慣例を破る画期的ともいえる新しい考え方に敬意と賛意を表したのであるが，ついては……と次の言葉が待っていたのでした。開発が進み人口増のいちぢるしい県南の中で筑波研究学園都市を抱え，科学万博の主会場地にもなる谷田部町で本年度開催すれば，これらのイメージアップにもつながりよいのではないか，もし了解を得られるならば統計協会の会議にも図って決定したいとのことだったのです。

まさにそのとおりで，かつて県都から外へ出たことのない大会を初めて当町で開催してくれるというこの機会を逃す手はないと考え，快く承諾したのであるが，さていざ実施となるといくつかの心配なことがありました。勿論統計課の方々も種々のご苦労があったことと推察できます。

まず約1,000人に及ぶ参会者に会場の設備構成が対応できるかということです。幸い当会場は固定椅子席1,100人のホールなのでこの点は問題ないとして，これに伴う受付場所，統計グラフの展示場，湯茶の接待所，喫煙所，受賞者，来賓，アトラクション出演者の控室等施設が狭いのでご不便をかけたことと思います。

次に駐車場ですが，車社会の現在においては鉄道，定期バス利用者は数少ないので200台以上の車を予測して対応を図ったのですが，当日までに整備する予定で委託した会場南側の駐車場の工事が，雨天等の障害で遅れたため完成の見通しがなくなった。やむなく何とか駐車できるよう急拠地ならしだけをした。しかし砕石も敷いていないので，もし雨が降ったらとヒヤヒヤだったが天の助けか幸い晴天に恵まれほっとしました。それにしても未整備のため皆様にご迷惑をかけたことをお詫びいたします。

その他では，舞台（壇上）構成，演出，レセプションの会場構成，アトラクション，中食の件等細部にわたる種々の協議があり，少ない予算の中で最大の効果を上げるべく，2転3転しながらあのような結果になったのです。

壇上には今までのようにメーンテーブルを置かず，サイドテーブル2つを用意して居並ぶ方々を見やすくするとともに栄えある受賞者を中央に据えた，キメ細かな，しかもユニークな演出構成であったと思います。

また花飾りも，折から役場前へ展示してあった菊花の鉢を作者の好意と協力でステージ両サイドへ配置し，季節感を盛り上げることができました。

このようにして大会は1日で終るものですが，計画，準備，開催に至る間，統計課職員皆様のご苦労は並々ならぬものがあることをあらためて痛感しました。

私はここで統計の意義，価値感，重要性等について申しのべるつもりはないが，いづれにしても全県的な関係者の協力なくしてはできないものです。その意味では今回の茨城県統計大会が地域へ進出という新しい試みであり，しかも不便な会場地であるにもかかわらず，皆様のご協力により，多数列席のもと，手前みそかもしれないが，成功のうちに開催できたことは喜ばしい限りであります。しかし不備の点，今後のあり方等についてのご意見もあると思いますので，次回への指針としても聞かせていただければ幸いです。

終りに，ご列席の皆様のご協力と，県統計課各位の成功に導くための種々のご配慮，並びに準備のときからお手伝いをいただいた地元筑波郡統計協会の皆様に，心から厚くお礼を申し上げるとともに，ご不便，ご迷惑をかけた点をお詫び申し上げます。

（谷田部町商工振興課長　入江五郎）